

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 1月 15日

事業所名 ぼてと

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			標準的の広さは約16㎡で、東京・大阪は30㎡です。ぼてとは児童支援室63㎡に加えて遊戯室98㎡があります。
	2	職員の配置数は適切である	○		応援が入ると助かる。	法令に定められた職員で対応していますが、今後は増員して手厚い支援を提供したいと考えています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		バリアフリー化は難しいですが、環境調整を継続して、過ごしやすい環境を整えていきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員会議で確認している。最近幅広く参画することができている。	常に改善していけるような組織創りを意識して運営してまいります。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			気軽に保護者が要望を伝えられるようなシステム(ラインオフィシャルの利用)を検討します。4月運用を目指します。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			引き続きHPにて公開していきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		随時見学可能なので、その際にアンケートをお願いしている。	沖永良部3事業所間での評価を目指しましたが、実現には課題が多いようです。引き続き実現できるように努力を継続していきます。また、保護者からの視点を活かせるように参観を促進していきます。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		職員の希望に沿って行われているが、今年度は感染防止のため難しい。	島外への研修は感染対策上中止しています。感染状況を見ながら、島外への研修への参加を検討します。当面は月1回の職員会議にて研修を行います。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		評価や課題は用意されている。	保護者のニーズを確認しながら、今後も標準化された評価を行い、客観的データを基にサービス計画を作成していきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			現在ぼてとではWISC-IVなど標準化された14検査を必要に応じて実施しています。今後も必要な評価ができるように検査数を増やすとともに、職員教育に取り組んでいきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			個別の支援内容はカンファにて検討しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		カンファや評価を定期的に行っている。	定期的なカンファでの個別支援の検討を行っています。また、集団活動では職員のアイデアを採用できるように、アイデアを提案する機会を増やしていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			児童の利用時間に合わせて、課題や活動を設定しています。きめ細やかな支援ができるように、人員増で対応できればと考えています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			今後も子どもが楽しく、遊びを通して学ぶことができるように、デイサービス計画を作成していきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			引き続き職員間の意思疎通を図るとともに、支援や役割が分かりやすい工夫を行います。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		就業時間内での振り返りは難しい。	業務を改善して、就業時間内で、振り返りを行い、支援内容な児童の様子、安全管理に関して意見交換を行い、日々の改善に取り組んでいきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の変化に気づき、支援の改善に引き続き取り組んでいきます。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			引き続き、カンファなどで計画の見直しなどを検討していきます。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			今後も継続していきます。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			今後も継続していきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			今後も継続していきます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアの必要な児童は現在利用していない。	必要に応じて関係機関と連携した支援が行えるような体制を維持していきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			就学支援委員会などを通して、情報共有と行っています。スムーズに就学後を過ごせるように引き続き取り組んでいきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		高校を卒業した児童はまだいない。	今後必要に応じて対応していきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		会議や昼礼を利用して、法人代表が行っている。	他の事業所との人材交流を推進していきます。感染状況を見ながら、島外での連携や研修を検討します。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		夏祭りなどに参加するようにしている。	沖永良部には支援学校がないので、日常で交流できていると思います。学童や関係機関の主催するイベントなどには希望があれば参加していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			法人代表が協議会委員であり、子ども部会部長として参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎や連絡ノート、面談などでできるだけ行っている。	送迎以外に日常で保護者と対面する機会は少ないと思います。感染対策を万全に行ったうえで、日曜ぼてなど自由に家族で参加できる企画を行っていきます。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	今後実施予定。	計画はありますが、実現できていません。困りごと体験とともにペアトレの開催を検討していきます。	
保護者 への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			今後も契約時に丁寧な説明を行っていきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			気軽に保護者が相談を伝えられるようなシステム(ラインオフィシャルの利用)を検討します。4月運用を目指します。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		感染防止のため難しいが日曜ぼてや父母の交流会は行っている。	気軽に保護者が相談を伝えられるようなシステム(ラインオフィシャルの利用)を検討します。4月運用を目指します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			今後も現体制を維持しながら、迅速に保護者からの苦情等に対応していきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		HPで随時更新している。	HPの更新を継続するとともに、ラインオフィシャルを利用して、行事予定を周知したりと、新しい連絡体制を構築していきます。
	35	個人情報に十分注意している	○		職員会議で通知している。話し合いが持たれたので、今からである。	個人情報の取扱いについて、引き続き職員教育に取り組んでいきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			引き続き配慮していきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			感染状況を見ながら、地域住民との交流の場を確保していきます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルの確認および防災訓練・AED訓練・エビベン訓練を継続していきます。また、入職時にマニュアルの説明や事故対応の訓練も行えるように教育体制を整備していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		上記のように取り組んでいます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		例年3月に虐待に関する研修を行っています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	保護者への説明がなされているか分からない。現在は必要性がない。	身体拘束が想定される児童の利用があれば、必要な取り組みを行います。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アナフィラキシーの恐れのある児童に関しては医師の指示のもと、エビベンの利用など対応しています。その他、必要に応じて医師との連携に努めています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		安全管理に関して責任者を任命しています。責任者を中心にして、事故等の情報の共有を行っています。